

## 令和5年度 自己評価計画書

							石川県立輪島高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
1 学びがあり進路実現できる学校	① ICTを日常的に活用した授業の推進により、生徒一人ひとりの可能性を引き出すとともに、探究型授業の充実を図る。	教務 各教科	教員へのタブレット配付、各教室のプロジェクター設置、Wifi接続、生徒個々にChromeBookが配付され、環境整備が進んでいる一方、それらを活用するための取り組みが求められている。	【 努力指標 】 ICT機器を活用した探究型授業を新しく開発している。	授業でICT機器を活用した新たな探究型の学習を取り入れた教員の割合が A : 80%以上      B : 60%以上 C : 50%以上      D : 50%未満	C以下の場合は教科、学年で指導体制を検討する。	年2回（9月・1月）の教員アンケートで評価	
	② 「コア輪島」「夢道場」などの自主学習活動を通して、生徒が主体的かつ発展的に学ぶ姿勢を育成する。	進路指導 教務	学習に対して受け身な生徒が多い上、与えられた課題をこなすことだけに力を注いでいる生徒がいる。進路と結びつけた学習を意識し、「できる」感覚を身につけさせ、学ぶ意欲と学力の向上に結びつけたい。	【 成果指標 】 模擬試験で国数英総合の平均点偏差値を2.0上げる。	1年7月と1月模擬試験を比較し、国数英総合の平均点偏差値を比較し A : 2.0以上上がった      B : 1.0～1.9上がった C : 0～0.9上がった      D : 下がった	C以下の場合は学年会、教科で指導体制を検討する。	1年7月と1月の模擬試験の結果を比較して評価	
	③ 教員の教科指導力を高め、3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。	進路指導 各教科	単年で受け持つ学年や課が変わることが多く、指導のつながりが薄い。コースごとの指導方法や、受験指導等のノウハウを共有し、3年間を見通した指導ができる体制を構築する必要がある。	【 努力指標 】 各教科での研修や教員相互の情報共有により、各学年の学びを繋げ蓄積している。	シラバスや評価の観点等の活用と、教員相互の情報共有により、3年間を見通した指導ができた教員の割合が A : 80%以上      B : 70%以上 C : 60%以上      D : 60%未満	C以下の場合は進路及び各教科で取組を検討する。	年2回（9月・1月）の教員アンケートで評価	

							石川県立輪島高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
2 人間力を向上できる学校	① 「部活道」などの課外活動を通して、主体的かつ能動的に行動できる生徒を育成する。	生徒会 各部顧問	「部活道」では制限が緩和され、通常通り活動できる機会が増えてきた。その中で、生徒が自ら考え、自発的に活動するための指導者の工夫が求められる。	【 満足度指標 】 自分たちで考え協働する場面を積極的に取り入れることにより生徒の主体性が高まっている。	自ら考え行動する場面を積極的に取り入れることにより、生徒の主体性が高まったと感じる顧問の割合が A : 90%以上      B : 70%以上 C : 50%以上      D : 50%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回（9月・1月）の教員アンケートで評価	
	② 学校行事を通して、他者を思いやりよりよい人間関係を築こうとする心を育成し、いじめを許さない環境づくりを推進する。	生徒会 各学年	自己肯定感が低く、自分の思いや考えを伝えることを苦手とする生徒が多いため、生徒間で良好な人間関係を築いていくことが必要である。	【 成果指標 】 生徒会活動への取り組みを通し、生徒が思いやりをもって他者と協働している。	生徒会活動で、思いやりをもって他者と協働できたと考える生徒の割合が A : 80%以上      B : 70%以上 C : 60%以上      D : 60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回（7月・1月）の生徒アンケートで評価	
	③ 地域との関わりを通して、積極的に自己研鑽する姿勢を育成する。	総務 探究推進部 生徒会	ビジネスコースを中心に地域と関わる取組が再開されてきたが、コロナ禍による行事等の制限が解除され、地域からも行事等への積極的な参加が求められてきている。	【 成果指標 】 授業や行事の見直しを進めながら生徒が地域と関わる機会を設定し直している。	生徒が地域と関わる授業の取組や行事のうち、今年度再開あるいは新規に実施された件数が A : 7件以上      B : 5件以上 C : 3件以上      D : 2件以下	C以下の場合、取組を見直す。	再開された取組や行事の件数で評価	

							石川県立輪島高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
3 地域と共に成長できる学校	① 「WJi活」を学校全体で系統的に取り組む活動として充実させ、地域貢献意識の向上と実践力の育成を図る。	探究推進部 各学年	地域に対する興味関心や課題解決に向けた意欲は高まっているが、さらなる実践力の育成に向けて、幅広いフィールドワークや学年相互の連携による探究活動の継続等が求められている。	【満足度指標】 適切な支援や助言により、地域の課題解決に向けた実践力を育成している。	「WJi活」を通して、地域の課題解決に向けた実践力を高めることができたと感じる教員の割合が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	C以下の場合 は教員の 研修機会を 検討する。	1月に1・ 2年生担当 教員にアン ケートを 実施して評価	
	② 輪島市主導の「高校魅力化プロジェクト」との連携により、将来にわたり地域を支える人材を育成する。	探究推進部 各学年 管理職	「高校魅力化プロジェクト」が主催する取り組みへの参加者を広げたり、スタッフのWJi活支援の機会を増やしたりすることで、生徒の資質向上に寄与することが求められている。	【成果指標】 輪島市学習センターと連携を図り、学習支援や探究活動をより有意義なものにしている。	市との連携を通して、学習や探究活動に対する意欲や能力が高まったと感じる生徒の割合が A：50%以上 B：30%以上 C：20%以上 D：20%未満	C以下の場合 は連携の 仕方を再検 討する。	1月に1・ 2年生生徒 にアンケート を実施して 評価	
	③ 小中学校との生徒間交流事業や教員研修、各種団体との連携を深め、「オール輪島」で生徒を育てる。	教務 管理職	コロナの影響で進捗していないため、制限が緩和されていく事を念頭に、企画を再検討する必要がある。	【努力指標】 他校種への授業参観を積極的に行う等、高校の教員自ら小中学校との関わりを持つように努めている。	校種間での相互授業参観や教科間交流、ICT機器の利活用研修会等に参加した教員が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	C以下の場合 は取組を 見直す。	自己申告を 管理職が集 計し評価	

							石川県立輪島高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
4 多忙化改善を積極的に実現できる学校	① コロナ禍で制限されていた行事について、その意義や効果を見直した上で、再開、廃止・変更などを検討し、業務の効率化と最適化を図る。	管理職 総務	ある程度行事の適正化が進んでいる。制限が徐々に緩和される中で、元に戻す活動と整理する活動のバランスをとる。	【成果指標】 前例踏襲でなく、一つ一つの行事についてその意義を再考し、適切に廃止、効率化を図っている。	廃止あるいは規模の適切な効率化を図ることのできた行事等の数が A：6件以上 B：5件 C：4件 D：3件以下	D以下の場合 は取組を 見直す。	適正化された 行事等の 数で評価。	
	② 教員の意識改革と業務改善を図り、ワークライフバランスの実現を果たす。	管理職 総務	コロナ禍の影響が落ち着き、業務が通常に戻りつつある。時間外勤務が増えないように注視する必要がある。また、業務が偏らないように業務の平準化をさらに進めなければならない。	【成果指標】 意識の改革と綿密な連絡調整により、時間外勤務時間が減少している。	教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より A：10%以上減少した B：5%以上減少した C：3%以上減少した D：3%未満の減少	C以下の場合 、評価結 果を分析 し、対策を 検討する。	毎月の勤務 時間調査で 評価	
	③ タイムマネジメントを生徒に意識させる学習指導、課外活動指導の確立を図る。	生徒指導 生徒会 各学年	学校での指導の成果や高校の指導も浸透してきており、不注意による遅刻が減少してきている。しかし、途中入室や開始ベルに間に合わない生徒の数が減少していないのが現状である。	【成果指標】 生徒のタイムマネジメント意識が向上し、ベル開始できる授業の割合を増やすことができています。	入室許可書「0」の日数が年間を通して A：175日以上 B：155日以上 C：135日以上 D：115日以上	C以下の場合 、評価結 果を分析 し、対策を 検討する。	生徒指導課 による入室 許可書の集 計で評価	